

HIDE [NOISEMAKER]

Marshall MG15CFX

デジタル技術とアナログ回路を融合した 王道のギター・サウンド

プロのステージから街の練習スタジオまで、ギタリストなら必ず見たことがあるマーシャルのアンプ。まさにギターの“王道”と言えるそのマーシャル・サウンドを普段の練習で鳴らせるとしたら…？今回特集するMG15CFXは、そんなギター・キッズの願いや憧れを実現してくれる1台だ。早速、先月号まで本誌連載「宅録ペーであ」の講師を務めてくれていたNOISEMAKERのギタリスト：HIDEと共に、本機の実力を見ていこう。まだアンプに触れたことがないビギナー諸君も、彼が伝授するノウハウをもとに、“真のギター・サウンド”を知ろうじゃないか！

Text / YUICHIRO FUSE [P.168-169], YUKINOBU HASEGAWA [P.170] Photo / MAI OKAMOTO [ODD JOB]



驚異のスペックを誇る定番小型アンプ MG15CFX ¥0open Price

部屋にマーシャルが置いてあるって やっぱりカッコ良い

ロック・ギタリストであれば、誰もが憧れる王道アンプ・ブランド：マーシャル。「マーシャルのアンプは個人的に大好きで、“ギターらしい音が鳴らせるアンプ”というイメージです。特にスタジオでよく見掛けるJCM900やJCM2000は、コードを弾いたときの各弦の分離感が良く、歪みの質感もとても滑らか。とにかく、ギターを弾いていて気持ちの良いアンプだと思っています」(HIDE)

その“王道”のサウンドを継承しながら、アンプ初心者でも使いやすい操作性と、様々な場面で活用できる多機能性、そして自宅での練習に最適なコンパクト性を実現した“MGシリーズ”の定番モデルが、今回紹介するMG15CFXだ。「このサイズのアンプが家にあったら良いですよ。フレーズが浮かんだときにパツと弾けるから、インスピレーションを落とし込みやすい。それに、エフェクトが充実しているけど、ツマミがシンプルなものもなくて好きです。ライブでは必ずアンプを使うわけだから、こういうアンプを使うことで、音作りやエフェクターの勉強にもなるし、そこで得た知識はライブはもちろん、宅録にも役立つと思う。何より、部屋にマーシャルが置いてあるって、やっぱりカッコ良いじゃないですか(笑)」(HIDE)



Specification

Control : GAIN, BASS, MIDDLE, TREBLE, REVERB, VOLUME, FX SELECT, MASTER, CHANNEL SELECT×2, TAP, STORE / Input : 1 (+AUDIO) / Speaker : 1×8" / Output Power : 15W / Size : 385 (W) × 380 (H) × 210 (D) mm

ギタリスト魂を 奮わせる音量感



8インチ・スピーカーを1基搭載し、片手で持てる重量7.7kgというコンパクトなアンプながら、マーシャルならではのパワフルさを実現。「ボリュームをあまり上げなくても、結構パワーがありますね。15W出力ですけど、体感はそれ以上。自宅でギターを弾くには十分すぎるくらいだし、学生さんが教室でライブをやる際にもこれ1台でまったく問題ないと思う」(HIDE)

練習に最適な 入力端子を装備



フロント・パネルには、ポータブル音楽プレイヤーを接続できる外部入力端子と、ヘッドフォン端子を装備。大きな音が鳴らせない環境でも、ヘッドフォンをすれば思う存分練習することができる。「好きな音楽を鳴らしながら一緒にギターを弾けて、しかも夜中でもヘッドフォンを付けて練習ができる。どんどんギターにのめり込んでいきますね」(HIDE)

エフェクトが 充実&高品質



1個のツマミで、コーラス/フランジャー/フェイザー/ディレイ/オクターブを切り替えられるエフェクターと、独立したリバーブを搭載。ディレイのタップ機能は、ボタン操作に加え、別売りのフット・スイッチでコントロールすることも可能だ。「リバーブの質がめちゃくちゃ良いし、ディレイにタップ機能が付いているのがすごい！これは贅沢すぎる(笑)」(HIDE)

4ch仕様 & EQで作り出せる多彩なサウンド

クリーン、クランチ、キャラクターの異なる2つのオーバードライブという計4チャンネルと、3バンドEQで多彩な音作りが可能。「歪みの質感が良いし、どのチャンネルを使ってもま

った音が鳴らせる。俺はクランチの音が好きでした。EQの設定をシビアに考えなくても、ちゃんとギター・サウンドが成立してくれるから、ビギナーでも使いやすいと思います」(HIDE)

HIDEお薦めセッティング【クリーン】



▲「歪みがなくなるとローが出てくるので、歪ませたときよりも音が太くなりすぎないように気を付けています。あとは6弦と1弦が同じくらいの音量になるようにベースとミドルを調整しました」(HIDE)

HIDEお薦めセッティング【クランチ】



▲「MG15CFXはクランチchでも結構歪むので、ゲインは少し絞り気味。荒々しい質感のゲインなので、このままゲインを上げればバッキングに使える音にもなります」(HIDE)

HIDEお薦めセッティング【リード】



▲「俺らはリード系の曲が多いので、特にミドルが重要なんです。ビンテージ・アンプが軽く歪む程度のイメージで、まずミドルを上げて音のコシや太さを出し、そこから音を作っています」(HIDE)

プロが教える サウンドメイクのコツ

「例えば“ハイが足りないな”と感じたとき、ちょっとトレブルを上げてみるとかじゃなくて、思い切りツマミを動かすことが大事。ツマミをガツと上げ下げしてみれば、どの成分が出て来るのか、どこが削れるのかが分かるようになります。“音が抜けない”っていう悩みをよく聞くけど、そこには“ハイが足りない”とか“ローが出すぎ”とか“歪ませすぎ”とか、原因はいろいろ考えられる。だから、どのツマミがどう作用するのかを知った上で、調整していくと良いと思います」(HIDE)

ツマミの操作は大胆に!



▲「ボリュームを上げるだけでローが出てきたりするの、ツマミは思い切って動かして、違うと思ったら戻せばいい。“目で音を作らない”ことが大切です」(HIDE)

「アンプで音を作る面白味が感じられるはず」



メタル的なドンシャリや、ミドルを突いたブルージーなサウンドなど、いろんな音作りが楽しめそうです。音作りには正解がないから難しくもあるけど、アンプで音を作る面白味が感じられるはず。ギタリストがアンプの音を知ることは重要だし、手軽に触れるアンプが家にあるって、とても良いことだと思います。

あとアンプの音って、ギ

ターを弾く位置とアンプの前に耳を持っていったときとで、聴こえる音が全然違うんですよ。“じゃあ、ライブや宅録で、自分が鳴らしたい音はどうすれば良いのか”って最初はみんな分からないだろうけど、アンプを持つことでそういう勉強もできるし、宅録をやっている人なら、マイキングの位置で音がどう変わるのかとかを試してみるのも面白いですよ。そういうことや、音作りを手軽に試すのにとても良い小型マーシャルだと思います」(HIDE)

「そういえば、僕が初めて買った自宅用アンプも15Wでした。でも、当時はリバーブくらいしか付いてなかったし、設定の保存なんてできなかったから、本当に今のアンプは便利ですよ。EQはミドルの効きが特徴的で、その設定次第で音のキャラクターが随分と変わります。だけど、EQを全部フルテンにしても音が破綻しないから、初めてアンプに触れるビギナーでも使いやすいと思います。良い意味で真空管アンプ的な難しさが無いから、3つのEQと歪ませ具合で、

